

新 体 育 館

上ノ国町スポーツセンターが3年後に誕生！

現在の町民体育館（昭和48年建設）に代わり、新たに建設が予定されている上ノ国町スポーツセンター（仮称）の基本設計が決定しました。当施設は、本町のスポーツを通して青少年の心身の育成、様々な世代の健康づくり、そしてこれまで津波被害に対して不安があった避難場所の確保として非常に大きな意義を持ち、これから最終調整を行い、実施設計を経て、来年の着工を予定しています。

これまでの経緯

- H23.12 上ノ国町スポーツセンター検討委員10名を委嘱
(町内会長2名、学校長3名、社会教育委員2名、スポーツ推進委員3名)
- H24. 2 第1回検討委員会（組織の結成と役職の任命）
- 3 第2回検討委員会（近隣町体育施設・運用体制視察等）
- 5 第3回検討委員会（場所、付属設備検討）
- 7 第4回検討委員会（他町スポーツセンター視察等）
- 9 先進地視察（蘭越町総合体育館）
- 11 第5回検討委員会（視察報告、答申内容素案策定）
- 12 第6回検討委員会（答申書の提出）
- H25.11 総務文教常任委員会において建設事業概要の事務調査
- H26. 2 上ノ国町スポーツセンター建設プロジェクトチーム設置
- 3 第1回プロジェクトチーム会議（基本計画の検討）
- 5 第2回プロジェクトチーム会議（基本計画の修正）
- 7 第3回プロジェクトチーム会議（基本計画決定）
- H27. 3 基本設計が決定
- H28. 2 実施設計が完成予定
- H28. スポーツセンター（仮称）建設工事着手予定
- H30. スポーツセンター（仮称）完成予定

建設の経過

現在の町民体育館は、築40年を迎えたことで老朽化が進み、特に平成5年の北海道南西沖地震以来、ひび割れや損傷が一層激しくなってきた。新耐震基準前に建築された施設のため、耐震性の問題も生じており、様々な危険性が指摘されています。

また、大留地区では避難場所として町民体育館が指定されていますが、東日本大震災で再認識された津波災害への対策として検討が必要になっていました。

津波災害の避難施設としての機能

体育館建設にあたり、津波避難を想定し、備蓄庫や発電施設を2階に設けるとともに、災害時には、2階ランニングコース・観覧席が海抜8・0mの1次避難場所として機能し、更に想定を超える津波が発生した場合には、備蓄庫上部（屋上）が海抜12・0mの2次避難場所（屋外避難デッキ）として機能するよう設計されています。

新たな町民体育館では、これらの課題を解決し、まちから愛され、そして命を守る施設として、建設されます。